

日刊 動労千葉

86.4.7

No. 2209

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二九三五・六（公衆）〇四七二二）七二〇七

要強取退
別配転・差
許切首
別選

国鉄関連法案粉碎！

四月一日の衆議院本会議で、国鉄関連法案の第一弾として「昭和六一年度において緊急に講ずべき特別措置法案」（希望退職に応ずる職員に対する退職金上積み等）の趣旨説明が行われ、いよいよ国鉄関連法案の本格審議が開始された。今こそ、二波の闘争で切り拓いた地平にたち、「分割・民営化」の矛盾・デタラメさを徹底的に暴き、関連法案阻止へつき進もう。

四月一日、審議に入った「特別措置法案」は、労働者が当局の希望退職に応じ、来年三月三十一までに退職した場合、基本給・扶養手当・基本給調整額を合計した額の十カ月分を現行の退職金に上積みするという許しがたい内容である。

中曽根の狙いは、この法案を今国会で成立させることを突破口に、この間、動労革マルを先兵に推進してきた三本柱（出向・一時帰休・退職強要）の内の退職強要にはくしやをかけ、年度内二万と言え退職者を強引に生み出し、もって「分割・民営化」のなし崩しの既成事実化をはかることにある。

そして、この関連法案の一きよの成立、「62・4・1」分割・民営化強行を目論んでいると云える。

審議もせぬうちから、なにが「合意」「ゴール」だ！

この日、朝の閣議で三塚は「ゴールまであと三六五日、改革を断行し、今国会で全法案の成立を期したい」と決意を表明した。

中曽根も衆院本会議で「来年の四月一日は、今回の民営・分割のスタートになる」と発言、さすがに野党から「まだ国鉄改革の法案が国会で審議されていないし、分割・民営化は決まっていない。

国会軽視だ。訂正せよ」と、せまられるほど今国会での関連法案等の成立にかけるなみなみならぬ決意を明らかにした。

さらに審議の中で「国鉄改革の方向が決まっていない段階で希望退職を募集するのは労働基本権の無視では」という質問に対し、「国鉄再建監理委の二年間の検討の中で国民の合意形成はできている」と全く労働者・国民を愚弄した答弁をすら行ったのである。

密室の中で論議し、かつてに決めた事が、何が国民の合意だ。十万人首切りと国鉄資産のぶん取りに一体誰が、いつ合意したのか。まさに、傍若無人、デタラメ極まりない。この一連の対応の中に、中曽根が、いかに国鉄に全政治生命、「総決算」の成否をかけているかを見てとれる。

焦り凶暴化する中曽根に
いまこそ総反撃を！

動労千葉の二波のストにより、労働運動の解体法案のスムーズな成立の目論見を打ち砕かれた中曽根は、動労革マルのより一層の協力のもと、広域配転・勤務評定導入により現場段階で具体的選別を開始し、労働運動の分断・解体の攻撃を強める一方、関連法案の強行で一気に事態を打開しようとしている。

だが、中曽根があせればあせるほど矛盾は拡大する。今こそ、団結を打ち固め「分割・民営化」の矛盾と凶暴な本質を暴き、突きまくり、関連法案阻止、差別・選別攻撃阻止へつき進め。

記録映画
俺たちは
鉄路に生きる



●上映時間：1時間40分
●講演：「イギリス炭鉱ストライキ 360日の教訓」
●日時：4月12日(土) 午後6時～
●会場：千葉市民会館 大ホール
主催：製作上映委員会 代表・宮島義勇